

令和6年11月29日

研修だより 43号



## なぜふりかえりが必要か？

小笠原康晃

先日、磐周地区の研修主任者会がありました。

そこで、袋井市教育委員会の教育長の講話を聞く機会がありました。

内容は次のようなものでした。

「これから子どもたちが生きていく社会は、正解が一つではない。

多くの情報の中から、自分が見つけた「納得解」を見付けていくことが大事である。

子どもたちの主体的な学習が必須である。

袋井市では課題とふりかえりの実施をしている。

しかし、未だ「ただ一つの正解を求めるような授業」「教師が主体となる授業」が多く見られる。」

「ふりかえりは、自分の納得解を見付けるために行うものなんだ。」と、ふりかえりを書かせる目的がはっきりしました（それまで、すこし曖昧なところがありました）。

私がイメージする「納得解」が出る授業は、国語の読解の授業です。

「ごんは幸せだったのか」という課題に対して、子どもたちは文を根拠にして、自分の意見をまとめます。

根拠となる文は同じでも、解釈が違うため、ひとりひとり違う解答になります。

しかし、一人一人が「納得」した上で「解」を出しています。

この「解」が「納得解」だと、私は考えています。

「納得解」を求める授業を、毎回の授業で行うことは難しいです。

知識・技能の習得に重点を置いて、実施する授業もあると思います。

しかし、1つの单元の中で1時間だけでも実施するだけで違ってくると思います。

ぜひ、意識をして取り組んでみてください。